

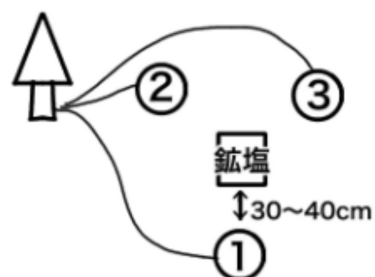
ニホンジカの効率的捕獲の普及と地域性評価 1 / 3

予算区分：国庫 1 / 2	研究期間：令和元～2年度	担当：企画・自然環境係 坂庭浩之
---------------	--------------	------------------

I はじめに

昨年度までの研究で、「長期定点捕獲法」を定義し、ニホンジカを同じ場所で繰り返し捕獲できる方法として技術確立した。この方法は初心者でも容易に取り組める方法で、群馬県内において普及することが研究の目的となっている。

本年度においては、2事業者（川場村、赤谷プロジェクト）に対して長期定点捕獲法の技術普及を図った。



II 方法

長期定点捕獲法によりシカの捕獲を行おうとする事業者（川場村役場、赤谷プロジェクト）に対して、設置の指導、通報装置の貸し出しを行い捕獲技術の普及を行った。

設置方法は鉤塩に対して3台のくくりわなを円状に配置する方法とした（図-1）。

その際、初心者である実施者が適切に捕獲作業が行えるよう、現地指導を行った。指導内容は「①場所の選択、②わなの設置方法、③通報装置の使い方、④捕獲時の処理方法（放血方法等）、⑤搬出方法」とし、特に長期定点捕獲法として同じ場所で繰り返し捕獲を行うための技術的要点について指導した。



図-2 設置状況

III 結果及び考察

(1) 川場村

2019年10月3日に村内2か所にくくりわなの設置を行った。わなの設置は職員自ら行い、現地にて指導した（図-2）。

捕獲結果は表-1のとおりとなった。設置から直ぐに高い捕獲効率（No1, No2）で捕獲が行えた。冬期を迎えシカの出没が減少したことで、捕獲効率が低下したが3月になりシカの動きが活発になり短期間で2頭（No4, No5）が捕獲された。

表-1 捕獲状況

No	罠設置日	捕獲日	捕獲効率(%)	場所
1	2019/10/3	2019/10/10	14.3	中野ビレッジ
2	2019/10/4	2019/10/10	16.7	世田谷ビレッジ
3	2019/10/10	2020/1/16	1.0	世田谷ビレッジ
4	2020/1/16	2020/3/13	1.8	世田谷ビレッジ
5	2020/3/13	2020/03/16	33.3	世田谷ビレッジ

$$\text{捕獲効率} = 1 / (\text{捕獲日} - \text{罠設置日}) \times 100$$

(2) 赤谷プロジェクト

赤谷プロジェクトエリア内の2か所で3台セットによるくくりわな設置を行った。設置は日本自然協会担当者が行った。当該担当者による捕獲は2年目あることから、場所の選定、くくりわなの設置方法は独自に判断してもらい捕獲に着手した。このエリア内（旧新治村）はシカの密度が低く、低密度地域での捕獲試験となる。



図-3 捕獲状況

捕獲は、くくりわなを41日間に延べ13台の罠を設置し、シカ3頭を捕獲した。(表-2)

表-2 捕獲状況

No	捕獲日	場所
1	2019/10/14	国有林246て林小班（富士新田）
2	2019/11/02	国有林248る2林小班（作業道跡）
3	2019/11/08	国有林248る2林小班（南ヶ谷湿地付近）

「長期定点捕獲法」とし2事業体で合計8頭を捕獲した。捕獲の初心者が実施した結果としては良好な結果となった。獣道の見立ての必要がなく基本的なルールを守ることによって確実に捕獲できることが確認された。特に、シカの生息密度が低い赤谷プロジェクトエリア内で捕獲できたことは捕獲技術として高く評価された。

一方で、鉾塩とくくり罠の位置関係が適切でないことや、元木とくくりわなまでの距離が長いことなど、捕獲個体が作業道に飛び出す可能性のある設置状況があったことなど、初心者が気づきにくいポイントがあることも確認された。長期定点捕獲法を指導するうえで、罠の設置方法を指導するのみでは安全な捕獲が困難であることが2つの事業から明らかとなった。

来年度において、安全な罠の設置、安全な止めさし技術、衛生的な食肉処理などいくつかのテーマに分け指導マニュアルの作成が必要であることが確認された。